

発行：2011年8月1日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

～えびすやミニコミ誌～

いどいばた がいぎ



No.57



特集

こころ豊かなモンの人々

こころ豊かな モンの人々



お気に入りの民族衣装を着て
センサイ幼稚園にて

今回は、前号で特集をさせて頂いた、タイのモン族の子供達に会いたくなり初の海外取材へ。

偶然にもNPO法人『シャンテイ山口』事務局長の佐伯さんが『モンの人々とのふれあいツアー』を企画されていましたので、急ぎよ同行させて頂く事になりました。と言う事で今回は「この目で見た現地の今」を報告させて頂こうと思います。

メンバーは美東町の大正洞横にある『フォトギャラリー・写創蔵』のオーナーの本東地圭三さんとその管理主任の八重子夫人。そして、コンテストでも数々の賞を受賞されているカメラ大ベテランの三浦玲子さんと金井道子さん、それに私（田村）の合わせて5人。



清潔感あふれるセンサイ幼稚園

福岡空港を飛び立ち、一路バンコクへ。バンコクでは空港で待つ事一時間半、国内線に乗り換え無事にチェンマイに着くと、我々より先に行かれていた佐伯さんが迎えて下さいました。初日はホテルに1泊、いよいよ明日から現地視察の始まりです。

翌日、約250Km離れた『センサイ幼稚園』へ。この幼稚園は、1992年にモン族の難民の子供達が差別や偏見なくタイ社会で暮らしていけるようにと設立され、



真剣な眼差しで・・・

以降10数年間シャンティ山口に よって運営されてきました。その後、教育内容等が評価されタイのモデル保育園・幼稚園として現在はタイ政府の手により運営されています。新しい建物は一昨年、王室のお声掛けで政府が増設してくれたとの事です。園内を見学した後、それぞれが持ち寄った絵本や折り紙、クレヨン等々のプレゼントを5人を代表して金井さんから先生の手に・・・みんな大喜びで

した。その場で先生が即興で絵本の読み聞かせを始めたとなん、今まで元気に遊んでいた子供達の目が一点に集中し真剣な顔で絵本に見入っていました。それを見た私は思わず顔を見合わせ、やった〜！（笑）しばらく子供達と遊んだ後、本日の宿泊先『シャンティ学生寮』へ移動する事に。寮は教育支援事業としてシャンティ山口により開設され子供達が中学校・高等学校に進学するための奨学金の支給や寮の運営を行っています。定員は50名で毎年卒業生の数だけ次の子供達を受け入れているそうです。佐伯さん達が山奥の村に行き、一軒ずつ回り面接をして選ぶのですが、家によっては「学校には行かせてやりたいが働き手が減ると困る・・・」と言われたり、なかなか理解が得られないなど難しい問題もあると聞き複雑な思いがしました。



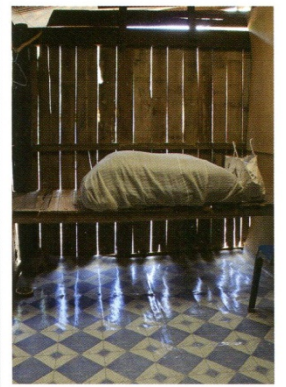
子供達はどこでも元気いっぱい！

夜が明け、食事を済ませていよいよ出発。途中にあるシャンティ山口の事務所までワゴン車で行き、そこからはトラック（4WD）に乗り換えます。それも荷台に（日本では無理ですが）・・・街中を通り抜け、揺られる事40〜50分、車はだんだんと山奥へ。道幅は狭く車一台が通るのがやっとです。右に左に下に下に！まるでジェットコースター（笑）

やっとの事でモンの人達50世帯が暮らしているホイプム村に着。とりあえず村にあるシャンティ山口の作業所で一休みする事に。



ホイプム村にあるシャンティ作業所



板を渡しただけのベッド

ここは、佐伯さん達が来られた時に使われる事務所兼宿泊所・・・電気もなく本当に質素で皆さんの活動に頭が下がる思いがします。トラックに揺られて来たのでお腹はグーグー（笑）早速昼食。途中の市場で買っておいいた食材をスタッフの方が手際良く盛り付け。中でも焼いたナマズの美味しかった事！そのあと、村にある『ホイプム保育園』を見せて頂く事に。そこで、いよいよ前号で紹介した『エコトイレ』の見学です。

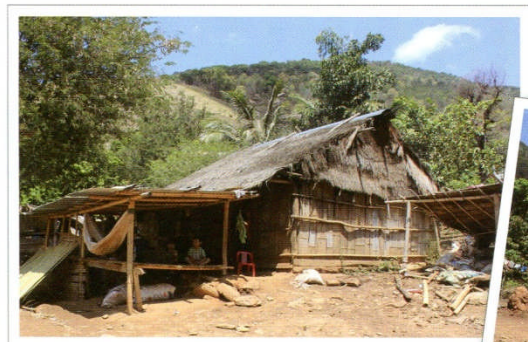


エコトイレ浄化装置

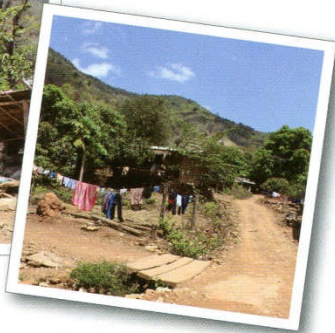
このトイレは、今回一緒に来た本東地さんが数年前にボランティア活動で村の人達と一緒に作ったそうで、無事に機能し活躍しているようで喜びもひとしおです！そのおかげで、今では保育園の炊事用の燃料は全て賄えるとの事。炎の状態は今ひとつですが、ぜいたくは言っておられません。なんと言っても究極のエコですから・・・浄化する際に発生するガスを取り出す装置はこの保育園と共用の2ヶ所に設置されていますが、浄化トイレは今ではこの村にも十数軒に設置されました。

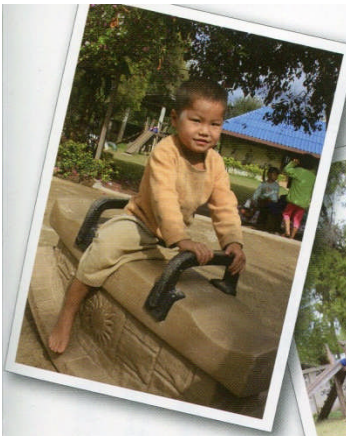
今後もう少し普及させていく予定とかで先が楽しみです。また指導の甲斐があり、少しずつ自分達の手で作れるようになってきたとお聞きし、シャンティ山口を目指す『山岳民族自立支援事業』も着々と進んで村の衛生問題の解決も時間の問題です。

感動もつかの間、いよいよ村の人達の所へ。まずは、村長さん宅へご挨拶。食事の準備中にもかかわらず快く迎えて下さいました。台所は土間で今でも薪で煮炊きです。村を案内して頂きましたが、本当に質素な暮らしなのに、人々は明るくて親切で、人のつながりを見てると少しうらやましく思えてきました。



ホイプム村の一般的な住まい





暑くないのかな？



センサイ幼稚園にて



1階は食堂・2階はゲストルーム

寮に到着するやいなや目に飛び込んできたのは、日本の災害への募金箱でした。話を聞くと、今まで日本には大変お世話になっていたので少しでも恩返しが出来たらという事でした。『阪神大震災』の時もタイの人々が心配し自分達の生活もままならない中、スラム街の人達も一緒になって募金活動をされたとお聞きし、感動すると同時に心は通じるんだと改めてその温かさにグッときました。

見学を終え日が暮れかかった頃、年長の子供達が夕食の準備をしていたのですが、なんとも手際の良い事。それもそのはず、日頃から子供達で食事を作っているそうで魚や鶏肉、野菜、デザートにはスイカなども振舞って頂きました。しかし、こんな料理はお正月くらいにしか口に出来ないらしく、私達のための最高のもてなしでした。



寮の子供達と一緒に（前列右・佐伯事務局長さん）



少し照れながらも一生懸命に！

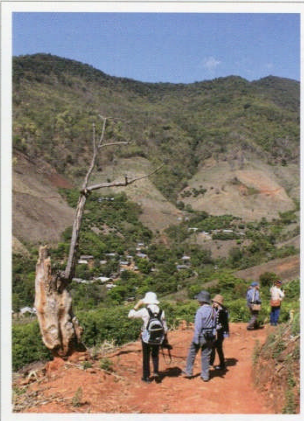
あいにく春休み中で寮に残っている子供達は少なかったのですが、夕食後、刺繍も鮮やかな民族衣装に身をまとった子供達が歌や踊りを披露してくれ、本当に楽しいひと時を過ごさせてもらいました。そして、いよいよ明日は、山岳少数民族のモンの人達のいる『ホイプム村』の訪問が始まります。夜もふけて、子供達がベッドメイキングしてくれたゲストルームで就寝です。



村の人達との交流を終え、再びトラックで移動です。今度はさらに山奥へ。進んで行くと途中から道幅も一段と細くなり、さすがにトラックでも無理でどうとう車を降りて歩く事に。そして周りの山はだんだんと丸裸に！緑が失われ大雨でも降ったらそれこそ心配です。この辺りには、数年前にバイオ燃料として使う為に、遺伝子組み換えトウモロコシが世界的大企業の手により流入しました。そして、山を切り開いてトウモロコシを単作し、農薬や肥料の購入の為に借金をするなど村に大きな負担がのしかかり、貧困と生活苦に追われて壊滅寸前だったそうです。

そこで、佐伯さん達は住民と協議を重ね、自然との共生農業に転換し、森の恵みによる持続可能な農業として生きる事を住民の総意で決めたそうです。土地に合った複数の作物を組み合わせ、不作時のリスクを減らす複合農業を目指して試験農場を作り、今は果樹などの栽培を始めているとの事です。近い将来、きっと緑豊かな大地に生まれ変わる事と思います。

今回の取材で、子供達はみんな明るく元気なので安心した事と、佐伯さん始めシャンティ山口の方々は現地で寝食を共にし、休む間もなく、そしてモンの人達の事を真



いつかは緑豊かに・・・

そんな時、以前何かで見たブータン人のジグメ・イエゼル・ティンレイ首相の言葉を思い出しました。



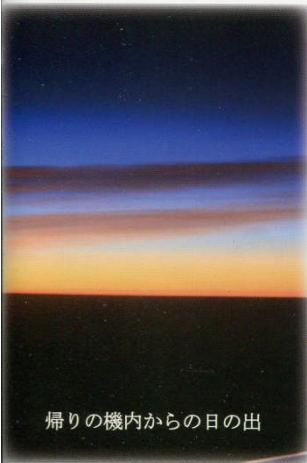
無邪気なモンの子供達

剣に考えて活動されているのだと強く感じました。

日本では周囲にあまり関心がなく、同じ町内でも知らない人がいるような状態。また、物あまりで贅沢に慣れすぎている我々より、貧しくても心が通い合った豊かな暮らしのように思えてなりません。そして、何か失われた大切なものを見せて頂いたようから感動しました。

「経済発展を目指す過程で心の問題が取り残されたんです。多くの人々は『幸せ』と『喜び』を混同している。『喜び』とは一瞬のもので、『幸せ』とは長く続くもの。物に頼って何でも手に入るようになっても心が満たされる事はない・・・」。まだまだ報告したい事が沢山ありますが、ページの関係でご紹介出来ないのが残念です。

この旅で出会ったモンの人達、そして佐伯さん始めシャンティ山口の現地スタッフの方々には大変お世話になりました。最後に佐伯さんの「今日の本の暮らしを見直し、何でもいから出来る事を実践してほしい」と言われた言葉が心に残りました。



帰りの機内からの日の出

平素は格別のお引き立てを賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

この度の東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、震災発生以降取り扱い商品の一部において供給が滞り、ご迷惑をお掛け致しました事を改めて深くお詫び申し上げます。

弊社と致しましても、少しでも復興のお手伝いが出来ればと、そして日本中が元気を取り戻せるよう社員一丸となって全力で頑張っております。

お陰さまをもちまして、7月で創業62周年目を迎える事が出来ました。これも一重に皆様方のお陰と重ねてお礼申し上げます。私共

はこれからも「LPガス」と「増改築」の専門店として、本物を追求し続けると共に快適な住生活環境づくりのご提案を行い地元の皆様から愛され信頼される地場企業として、そして住まいの総合プランナーとして努力して参りますので今後ともご愛顧の程、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長

田村 譲二

～ へんしゅうこーき ～

震災の為、6月号を休刊させて頂き申し訳ございませんでした。8月号より改めて頑張っておりますので宜しくお願い致します。

震災より5ヶ月・・・原発問題・風評被害と未だ復興への道が遠く悲しく思います。子供達もなかなか外で遊べない状況が続いている映像を見ると同じ親として心が痛む毎日です。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

企画広報室 岡部 治子

今回の表紙は、タイのホイプム村でのスナップです。

LPガス・増改築専門店
株式会社えびすや

〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目2番12号

TEL 083-922-0804 FAX 083-923-8753

偶数月(年6回)発行 編集責任者 株式会社えびすや 企画広報室

一環境衛生活動募金にご協力をお願いします。一

2011.08.01sacki